

独立監査人の監査報告書

平成29年5月31日

学校法人 聖母被昇天学院
理事会 御中

公認会計士三原秀章事務所

公認会計士

三原秀章



加藤公認会計士事務所

公認会計士

加藤通



私たちは、私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づく監査報告を行うため、平成28年6月3日付け大阪府教育長公告第1号に基づき、学校法人聖母被昇天学院の平成28年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の計算書類、すなわち、資金収支計算書（人件費支出内訳表を含む。）、事業活動収支計算書、貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む。）、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

計算書類に対する理事者の責任

理事者の責任は、学校法人会計基準（昭和46年文部省令第18号）に準拠して計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私たちの責任は、私たちが実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類に対する意見を表明することにある。私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私たちに計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私たちの判断により、不正又は誤謬による計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私たちは、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類の表示を検討することが含まれる。

私たちは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私たちは、上記の計算書類が、学校法人会計基準（昭和46年文部省令第18号）に準拠して、学校法人聖母被昇天学院の平成29年3月31日をもって終了する会計年度の経営の状況及び同日現在の財政状態をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

論議事項

資金

現金預金 43,566,800 円

本年度は、2017年4月からの学院改革・21世紀型教育の指導に向けての活動が進められ小中高校入学者が176名と昨年より52名増加した（前年比42%増加）。しかし、これらの収入は新年度となるため、従前からの資金不足は継続し、厳しい状況にある。このため、新年度は更なる学院改革・経営改善に向けて、入試広報体制の強化をはじめとして、小中高入学生を240～250名の確保を目指し、活動を進めている。また、金融機関に対して融資の働きかけを行っている。

当該事項は、私たちの意見に影響を及ぼすものではない。

その他の事項

学校法人聖母被昇天学院の平成28年3月31日をもって終了した前年度の計算書類は、前任監査人によって監査されている。前任監査人は、当該計算書類に対して平成28年6月3日付けで無限定適正意見を表明している。

利害関係

学校法人と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上